

A-Lab

archive

vol.20

A-Lab
あまらぶ アートラボ

尼崎市

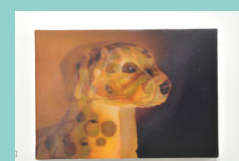
お問合せ先

尼崎市 文化担当部 文化振興担当

TEL : 06-6489-6385 (イベント時 06-7163-7108)

FAX : 06-6489-6702

E-mail : amalove.a.lab@gmail.com



A-Lab Exhibition Vol.18

新鋭アーティスト発信プロジェクト

A-Lab Artist Gate 2019

鈴木 真衣子

高畑 紗依

早石 萌莉

范 銘 珊

肥後 亮祐

森井 沙季

あまらぶアートラボ A-Lab Exhibition Vol.18

「A-Lab Artist Gate 2019」

■目次

「A-Lab Artist Gate 2019」 出展作品	01-06
鈴木 真衣子	01
高畑 紗依	02
早石 萌莉	03
范 銘珊	04
肥後 亮祐	05
森井 沙季	06
アーティスト・トーク	07-25
フライヤー・会場配布資料	26-27



鈴木 真衣子 / SUZUKI Maiko

1995 京都府出身
京都市立芸術大学 美術学部美術科版画専攻 卒業

【自身の作品について】

自分が面白いと思ったことを人に説明するために制作をしている。また、人の頭の中で勝手に動いて展開してしまう作品を作りたいと考えている。今取り組んでいるテーマは、日用品の「分解」である。「分解」で伝えたいことは「人間は現実にはあり得ない状況でも想像できる」ということと「人間は普段物を見るとき、実際には表面しか見えていなくても、内部をイメージしながら物を捉えている」ということだ。私が木版画で表現する理由は、木版画という技法に、下絵、分版、版木へのトレース、彫り、刷り、とイメージを繰り返しながら行程があるからだ。私にとってそれらの行程は、モチーフの構造を捉える過程である。

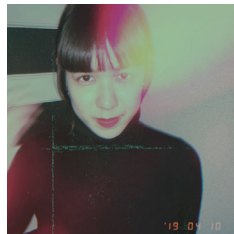
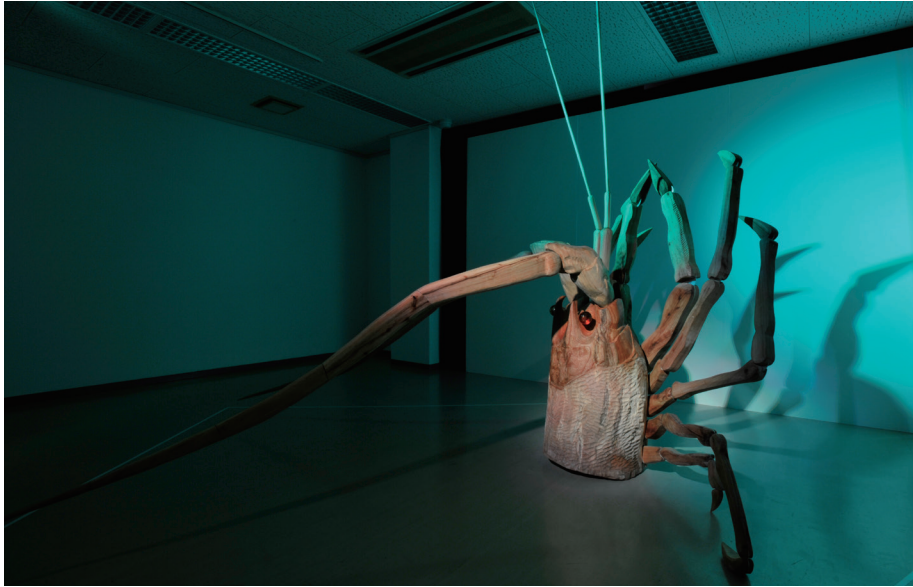


高畑 紗依 / TAKAHATA Sae

1993 大阪府出身
京都精華大学大学院 芸術研究科芸術専攻版画領域 修了

【自身の作品について】

輪郭線は、ある視点から眺めたときに見えるそのものらしい形をたどることで浮かび上がる、対象と周囲を隔てる境界線です。人によって違って見えているような曖昧なもの、形、関係、様々なものを確かめる・可視化する手立てとして線は存在しています。輪郭線をなぞっていくうちに、どこからどこまでが一つの物の形なのか、どこで線を引くべきなのか境があやふやになっていきます。さらに、解体することで、ただの線になり、本来の意味を失ってしまいます。形をなぞり線を描き、さらにそれを解体する工程を経て、空間に線を散りばめます。それは、ものの形、線のありかについて問いかけるための作業だと考えています。



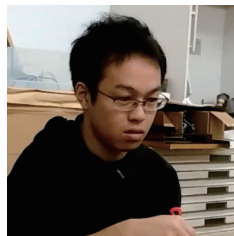
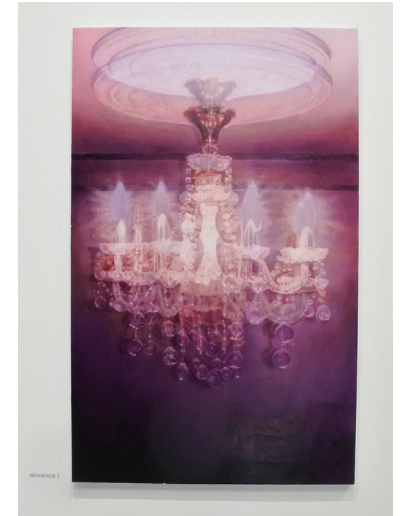
早石 萌莉 / HAYAISHI Moeri
1996 大阪府出身
京都精華大学 芸術学部造形学科立体造形コース 卒業

【自身の作品について】
木で海に関連するものを制作しています。



范 銘珊 / Rice Mingshan Fan
1991 中国出身
大阪芸術大学大学院 修士課程写真専攻 修了

【自身の作品について】
自己意識と自己認識を主なテーマとして作品制作に取り組んでいる。また、写真以外にもビデオや彫刻などのさまざまなフォーマットを試している。

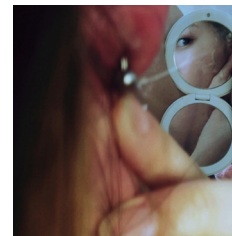


肥後 亮祐 / HIGO Ryosuke

1995 北海道出身
京都精華大学 芸術学部メディア造形学科版画コース 卒業

【自身の作品について】

見れていなかったノイズ（背景）が見たいものへと反転する時、意識するまでの潜伏期間に起こったことを考えたりする。背景として処理される前の環境や状況について考えながら制作している。



森井 沙季 / MORII Saki

1996 兵庫県出身
京都造形芸術大学 油画コース卒業

【自身の作品について】

人が思い描く「夢」というのは常に「理想」と「虚構」、この二つに引き裂かれている。色鮮やかな「理想」が否定へと変質した際、仄暗い「虚構」が現れ次第にその鮮やかな色が明度を奪われ、臙げな色彩へと変容してしまう。人が夢を叶えるプロセスは光と影、表と裏、相反する2つの要素が互いを飲みこみ合い、ブラッシュアップされて行き辿り着くものだ。私はその過程を美しく思いキャンパスへと写し込む。

「A-Lab Artist Gate 2019 アーティストトーク」



出演 おかけんた、鈴木 真衣子、高畑 紗依、范 銘珊、肥後 亮祐、森井 沙季
司会 尼崎市 文化振興担当 松長
日時 2019 (令和元) 年 6 月 1 日 (土) 午後 2 時～ 4 時
場所 あまらぶアートラボ (A-Lab room1)



トークイベント時の会場の様子

おかけんた (以下：おか)

皆さん、こんにちは！よろしくお願いいたします！
尼崎市民の方はどれくらいいてるんやろ？
今回「A-Lab Artist Gate 2019」ということで、毎年私がMCをさせていただいてアーティストさんに一体どんな作品なのか、学生時代どんな風に過ごしていたのかを皆さんに知っていただくためのイベントです。今日は暑い中、足を運んでいただきありがとうございます。今日はですね、現代美術、コンテンポラリーアートというのはい一体何なのか不可解で分からないなという方がいらっしゃると思うんですが、そういったことを分かりやすく紐解いていきたいなと思いますので、最後までお付き合いいただきたいと思います。では最初に、鈴木真衣子さんよろしくお願いたします。

鈴木真衣子 (以下：鈴木)

よろしくお願いたします。
おか 大学はどこですか？
鈴木 京都市立芸術大学を卒業しました。今は同じ大学の大学院に通っています。
おか 作品はどちらに展示されていますか？
鈴木 廊下に掛けられている額に入った版画作品です。
おか 段ボールに入ってるものが分解されたりしてる作品ですよね？これは一体どういうコンセプトというかどんな意味があるんですか？
鈴木 簡単に言うと鑑賞者が頭の中でついはいめてしまみたいなのそういう作品をつくりたいなって思ってる。
おか 普通、平面っていうものはその中で形が完成しているものだけれども、それを実際に見ている人が例えばパズルのように分解してみたりとか、そういうものを可視化したということなんですね。
鈴木 ありがとうございます。
おか 僕ら子どもの頃にそういう解体作業をしましたよね。例えばラジオを自分で解体したりとか、ものを切っただけでこうなるのかとかね。大きく言うと想像の世界とか、そういったものをコンセプトにしてやっています。それを後々なぜこうなっていったのかということを知りたいなと思います。今回何点くらいの作品を展示されていますか？
鈴木 作品自体は何点かでセットになっているものもあるんですけど、額の数はいくつかです。

おか 今回展示されている作品は、卒業制作展で発表した作品ですか？
鈴木 卒業制作展で発表したものが大半なんですけど、二点だけ今年度つくった新作があります。
おか やっぱ卒業制作展で出したものと、新たにつくった二点では、気持ちは違うんですか？
鈴木 続いてはいるんですけど、ちょっと次の章に入ったかなって感じなんです。
おか なるほど、大学院に進学して、次のステージに進んだような感覚ですね？ちなみにその二点というのほどの作品なんですか？
鈴木 シャンプーとか石鹸が縦に割れてる作品と魚がまな板の上でぐちゃってなってる作品です。魚がいっぱいいる作品は、卒業制作の作品で、一匹しかいない方が新しい作品です。
おか 鈴木さんは京都市立芸術大学、通称「京芸」と呼ばれていますが、大学では一体どんなことをしていて、どういう場所なのか。そしてどんな生活をしてたのかということをお聞きするのに画像を用意していただいておりますので、それをご覧いただきたいと思います。
鈴木 ちょっと勘違いしてまして、大学が写ってる写真にすればよかったんですけど…。これは宮崎駿がデザインした東京の三鷹市のキャラクターで。趣味でアニメーションをつくってたりしたんですけど。コンペにノミネートされたので会場で流してもらったことがあって、その会場でちょっと惹かれて撮影した写真です。
おか その会場に来てたんですね、そのキャラクターが。
鈴木 そうです。
おか アニメーション自体はどうだったんですか？
鈴木 結局受賞には至りませんでした。
おか 一つの学生時代の良い思い出ですね。でもそれならアニメーションを映しません？キャラクターよりそのアニメーション流した方が良かったんじゃない？
次回きましようか。これは…？



鈴木 ちょっと勘違いしてまして、大学が写ってる写真にすればよかったんですけど…。これは宮崎駿がデザインした東京の三鷹市のキャラクターで。趣味でアニメーションをつくってたりしたんですけど。コンペにノミネートされたので会場で流してもらったことがあって、その会場でちょっと惹かれて撮影した写真です。



鈴木 これは私が大学一回生のときに京都市美術館の別館で友達の彫刻作品に入って遊んでいる写真です。

おか 友達の彫刻作品の中で遊んでるんですか？

鈴木 「人が入れる形」というテーマやったらしくて、入って友達に撮ってもらいました。

おか ヘー。友達の作品を見たときに、勝ったとかか負けたとか思ったりするんですか？

鈴木 私はあまり思わないかもしれないですね。

おか タイプ的にそうかなと思う。ニコニコ笑って記念撮影してますもんね。

鈴木 彫刻って自分のやっていることと違うので、特に。

おか 全然違いますもんね、先ほど見ていただいたような版画の平面作品ですからね。大学自体は家から通っていたんですか？

鈴木 そうです。

おか 自宅から大体何分くらい？

鈴木 一時間半くらいですね、片道。

おか 結構掛かりますね。ちなみに京都市立芸術大学を一言でいうとどんな大学ですか？

鈴木 えっと…「世間知らず」です。

おか 大学が？世間知らず？

鈴木 大学に通ってる人たち？いい意味でも悪い意味でも。

おか いわゆる「擦れてない」「純粋」ということですか？

鈴木 そうですそうです。そういうことです。

おか 続きまして、高畑さんです。作品がちょうどこちらの部屋にあるんですね。これはどういった作品ですか？

高畑紗依 (以下：高畑)

これはもともと風景をなぞっていった線なんですけど、それを解体して行って、壁に貼っています。

おか 映像が映っていますけど、全体的に一つの形になるものが出てくるんですけど、それがもとの風景の部分なんです。それをひとつひとつの部分ばらばらにしてこういったパーテーションの中に。これは描いているんですか？貼っているんですか？

高畑 カッティングシートっていうシールを切って、壁に貼っています。

おか 卒業制作展でもこのような形の作品でしたが、最初からこのような作品をつくっていたんですか？

高畑 私は版画を専攻していたんですけど、最初はシルクスクリンで写真をぼかしたイメージを刷っている作品をつくっていました。四回生くらいからこういうスタイルに移行しています。

おか 大学は京都精華大学ですよ。今年拝見したんですけど、賞をおとりになっていましたね。大学で展示したときとちょっと違いますよね。大学の場合はキューブ状の四角い形の部屋でしたけど、今回のこういった形にしたというのは？

高畑 壁をつくれるって聞いたので、普通にするのは面白くないなと思って、斜めの壁に入っていくと視界が狭まっていくのが面白いかなと思ってこういう形になりました。

おか 確かにね、狭まっていくっていうのが、情報が吸い取られていくというのか、奥のほうにどんどんいって、そういうイメージですよ。こちらには映像が流れているんですけど、パーテーションの方を見ても、ある意味映像を見ているような錯覚に陥るといいますか。この三角の頂点になってくると、引き込まれていくような感覚になりました。そういった狙いがやっぱりあるんですか？

高畑 つくってから、こんな感じになるんやないと、面白いな一と思ったり。

おか 作家さんの思いつてそんな感じなんですか？つくった後でこんななるんだなって、ありますか？

高畑 ありますね。

おか やっぱりそんなや。それは自分で現場に行って搬入設置のときに自分の作品ってこう見えるんだとか、こういう見せ方ができるんだということに気づくんですか？

高畑 そうですね、搬入の時に色々見えてきます。

おか 今回は渾身の作品というか、できたなって感じですか？

高畑 そうですね。

おか さきほどチラッと出ましたけど精華大学というところを卒業されて現在は？

高畑 今はアルバイトなどをしながら食いつないでいます。

おか 院は修了されている？

高畑 修了してます。

おか 大学院って何年行きますか？

高畑 大学院も前期課程と後期課程があって、前期課程は二年なんですけど後期課程は三年あります。

おか 何年行かれたんですか？

高畑 私は二年です。

おか それでは精華大学へずっと行っていたときの院時代の写真をご覧ください。何ですかこれは？



高畑 これは精華の学園祭、「木野祭」っていうんですけど、去年の祭りに移動式動物園が来ていて、そのときの写真を持って来ました。鳩と鶏と山羊が居ました。

おか みんな向こう向いてるじゃないですか、こんなが来るんですか？

高畑 去年、初めて来ましたね。

おか 高畑さんは動物が好きですか？

高畑 動物は好きですけど、そこまでめちゃくちゃ好きって訳ではないですね。

おか 生まれはどこですか？

高畑 大阪の堺市です。

おか じゃあ周りに動物がたくさんいるとか、家で何か飼っていたとかそういう訳ではない？

高畑 ではないです。

おか 山羊とか鶏とか色々いますけど、この中で何か飼ってみたい動物とかいてますか？

高畑 この中だと…鳩かな。白い鳩。カタツムリも今、飼いたくて。

おか カタツムリ…それは鳩の餌にするって訳じゃないでしょ？

高畑 じゃないです。

おか カタツムリってゆっくり動くんじゃないですか？

高畑 ゆっくり動くのがいいな一と思ってる。

おか 例えばカタツムリ飼ったらずーと見るタイプですか？

高畑 ずーと見てると思います。

おか どっかっていったら、犬とかカタツムリとかそういうタイプが好きですか？

高畑 亀とかも好きですね。

おか 分かるわ。亀とかカタツムリとか、一日中見ても飽きないでしょ。それでこういうところが最初にくるんですね。二枚目は何かあるんですか？

高畑 二枚目も鳩なんです。

おか これちゃんと正面を見てますね、さすがアーティストさんの写真やなと思います。これ自体が一つの作品



で成立してる感じがするんですけど。…よっぽど気に入ったんですね。次は？

高畑 精華のバスなんですけど、今年の春くらいにバスの外装が変わって。なんか護送車に似てるなって思ってる。



おか よくテレビなんかに出てきますよね。街中を走ってたりしますもんね。これにずっと乗っていたんですか？

高畑 これは卒業する間際くらいに変わったんで、乗れなかったんですけど。

おか これはどの駅まで行くんですか？

高畑 国際会館ですね。

おか 駅が出町柳から出てる叡山電鉄の京都精華大学前で、そこからちょっと行ったところに国際会館のバスがあるんですよ。では次は？



高畑 この写真は工事現場で遊んでいる写真です。

おか 工事現場？下のやつはなんなんですか？

高畑 分からないんですけど、滑り止めか何かが道路に置かれてあって遊んでました。

おか これ面白いですね、個性ありますね。これ写っているのは高畑さんですか？

高畑 私です。

おか ものすごく怪しいんですけど…

高畑 めちゃくちゃ寒くて。頭が寒すぎて…

おか ここは大学の近所なんですか？

高畑 全然。友達の家の方なので、奈良ですね。

おか なんか高畑さんって戯れているイメージがあるんですけど。動物とか護送車とか。ある意味ですごいものであるとかそういうものに興味を示すというか、そういうのが強いんですか？好奇心というか。

高畑 その辺にあるものでも面白いなと思ったりとか、遊んでみたりとかは結構よくしてます。

おか 兄弟はいますか？

高畑 はい、下にいます。

■アーティストトーク

おか お姉ちゃんなんだ。

高畑 一応お姉ちゃんです。

おか 下の弟さんか妹さんに、お姉ちゃんにこんなや
ねって言われたことあります？

高畑 お姉ちゃんって呼ばれないんですよ、私。

おか なんて呼ばれます？

高畑 名前で呼ばれます、紗依って。

おか 呼び捨て？

高畑 尊敬されてないんです。

おか 今回の作品を見ていただいたら尊敬されると思
いますよ。ありがとうございます。それでは范さんよろ
しくお願いいたします。范さんの作品はどちらにありま
すか？

范 銘珊 (以下：范)

和室です。

おか 和室の作品というのは、写真があったりとか、立
体の作品があったりするんですけど、これはどういった
作品ですか？

范 私の専攻は写真なんですけど、大学院でいろいろ
他の授業を取っていました。ガラスとか染色とか彫刻
とか。これはガラスの授業でつくった作品です。

おか じゃあ、立体がガラスでできてるんですか？

范 ガラスです。

おか この細々になっているのは写真？

范 そうですね、中には写真を入れてます。

おか シュレッターとかそういう状態にして？

范 下はシュレッター、頭の中のものの手で切って。胸
の中にも写真が入ってます。

おか ここにも写真が入ってるんですか？こういう写真
を破ったり、シュレッターにかけるっていうのは脳の中
にある記憶をイメージされているんですか？

范 そうですね、今はデジタルの時代なんですけど、頭
のところに入ってる写真は、今私たちがインターネットや
SNSにあげている写真。本当の生活の記録より、より良い
可愛いとか、いいところに行って写真だけ撮って帰る。こ
ういう人に見せるための写真が今は多い。頭の中は私が
撮って、アップしてみんなが「いいね！」してくれるかな
と思っている写真が頭の中に見えるようにしてて。でも胸
の中の写真は自分のために撮っていて。誰にも見せない
もりの写真。一番下のシュレッターの写真はこの二年間
つかった作品のリサーチを全部シュレッターにいれたもの。

おか なるほど。そういうものを一旦消化したもので
すね、写真というものを。これはなかなか面白い作品です
ね。写真がこう破いてる作品は、あれは家族の方ですか？

范 お父さんとお母さんです。私は一人っ子さんです。
中国が一人っ子政策のときに生まれたんです。一人っ子
になると、いろいろプレッシャーとか掛かってきます。
中国は多分日本と似てます。ちっちゃい時から同じユニ
フォームを着て、毎日同じことをして同じ給食を食べて、
みんな一緒、同じになっています。

おか いわゆる右にならえという形になっているとい
うことですか？

范 そうですね。私はちっちゃい頃からみんなとちよ
つと違っていました。

おか みんなと同じことをしたくなかった？

范 はい。だから自分がどういふ人か知りたくて、アイ
デンティティとかいろいろテーマにして作品を作ってます。

おか アイデンティティというのは日本的なものとか
で、よく海外なんかに行ったとき「これは日本のアイ
デンティティがない」なんて言われたりすることもあり
ますけど、中国の方が日本に來られて逆に思うこともた
くさんありますか？

范 例えば日本の正月は絶対に火を使えない。でも中国
では必ずみんなと一緒に集まってご飯を作ります。

おか 日本って海外に旅行に行ったり最近が多いです
けど、中国の人はみんな集まるっていうことですかね。

范 そうですね、中国はみんな集まるのが好きです。

おか 范さんはみんなで集まるのは好きじゃないですか？

范 今は好きです。離れたら好きになったんですけど。

おか 客観的に家族というものを見たときに、こうい
うこともしないかなど考えるということですかね。

范 昔は義務みたいになっていましたけど、今は離れた
ら逆に帰りたいかな。

おか 義務みたいなものがあって、そういうものに縛
られてることが、反感とか反骨精神みたいなものがあ
ったけど、今現在は違う見え方もあるということですか
ね。写真を破いているのは？

范 私はアメリカに七年住んでました。お母さんお父
さんは一回しか来たことがありません。大学から卒業し
たときの一度だけ来てくれました。そのとき一緒に旅行
に行った写真です。実はお母さんとお父さんと一緒に旅
行すると毎日イライラします。昔お父さんとあまり仲が良

くなくて。一緒に旅行、しかもツアーに参加してて、毎
朝四時に起きてて。

おか 四時！？

范 そうです、四時に起きてバスに一時間乗って、到着
して二十分見て、一時間バスに乗って次の場所に行く
っていうツアーだったんですけど、本当に参加したくない
んですけど、お母さんお父さん初めて来てくれて英語も
喋れなくて。ツアーも参加するしかない、行くしかない。
おか 引率というか、お付き合いで行った訳ですね。

范 もし写真撮らないと、ずっとお母さんとお父さんの
ことに集中したら私は毎日喧嘩しないといけなから、あ
のときずっと写真撮ってて。写真撮ってるときはお母さん
もお父さんも話しかけてこない。作品つくってるとする
から。手段の一つとして写真を撮りました。見せるつもり
あまりなかったんですけど、今、五年くらい経って振り返
たらあのときの気持ちとか、いろいろと私のアイデン
ティティとか自分にも関わってて、作品にしてみました。

おか 作品化して、自分の中である意味けじめをつける
といったこともあるのかもしれないね。家族というも
のを題材にするというのは、なかなか勇気のいることだ
と思います。范さんの用意していただいた写真を見たい
と思います。これはアメリカですか？



范 大学卒業した同じ専
攻のみんなと一緒に撮った
写真です。

おか これはアメリカのどこの州なんですか？

范 ラチェスタ、ニューヨーク州なんですけど、カナ
ダに近く結構寒い場所です。

おか カナダの方なんか行ったら、フランス語圏があ
ったりしますよね。世界各国から来てたりするんですか？

范 大体がアメリカ出身でした。私が入った時はアジア
の人は三人くらいしかいなかったです。今は結構増えました。

おか いいですねー。なんかこの大学の四角い帽子。な
んかよく僕らの印象で投げたりするじゃないですか。卒
業のときに。そんなんですか？

范 したかったんですけど、前の卒業生がそれでケガし
てて。やめてくださいって言われました。

おか 次の写真は？



范 大学にある機材室。三
年生と四年生のとき、そ
こでパートタイムとして働いてました。

マネージャーはちゃんと雇ってるスタッフさんです
けど、学生たちもそこで働いて、機材についてもいろ
ろ勉強できました。

おか 日本でいう一石二鳥ということで、機材のことも
勉強できるし。その分、アルバイト料も安いですか？

范 一番低い時給でした。

おか ちなみに時給っていくらくらいですか？

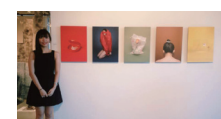
范 八百円くらいかな。

おか 次の画像は？



范 これはガラスの作品を
つくっているときに顔の型
を取っている。顔の型を取る
ために五分くらい顔を中
に入れないといけない。チュ
ープは呼吸するためのチュ
ープで、チューブが一瞬上
がって呼吸できなくて死ぬか
と思いました。

おか 次、お願いします。



范 これは大学の卒業制作
展です。大学で制作した作
品もセルフポートレートで
す。二番目と四番目は私
です。他の私が持っている
中国と繋がりがあるもの。
自分と私の持っているもの
をオブジェクトにして距離
をとって、自分がどうい
う人に見えるかっていう
作品です。

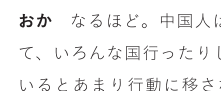
おか この卒業制作もアメリカ
で？

范 アメリカです。

おか アメリカに居るときのア
ートの発想って、やっぱ
り日本に居るとときと違
いますか？

范 そうですね、環境の影
響もありますね。日本に
来て一番気づいたことは
日本の人はあまり海外に
出ない。日本で満足して
る。結構便利だから、な
んでも手に入るから。海
外はネットで見て満足し
てる人が多いです。でも
中国の人はとりあえず海
外に行きたい。

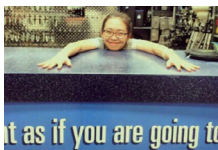
おか なるほど。中国人はワ
ールドワイドになってき
て、いろんな国行ったり
してますけど、日本人を
見ているとあまり行動に
移さないんだと思う訳
ですね。僕も出た方がいい
と思いますね。次は？



范 これはデコルテの型を
取っているときの写真で
、石膏を使って型を取っ

て、石膏が乾く前に支えないといけないから、三人で協力して。

おか 大変やな一。では次は？



範 これはさっきの機材室で働いている写真です。

おか 受付の下も英語ですもんね、ちなみになんて書いてるんですか？

範 「借りたものは必ずチェックしてください、撮るときもし壊れたらあなたの責任です。」

おか アメリカって言う国は自己責任というのが強い国ですよ。そのかわり自分はこれをしっかり持ちなさいって分担当ははっきりしてますよね。これなんか面白いな。一つの何か記念撮影というか、見てて面白い写真ですね。次のこの写真は？



範 これはソファです。私たちの学校は写真専攻で結構忙しいです。夜十時くらいに学校は閉まっても、学校で働いている人は施設が

二十四時間使える。より良い作品をつくるためにみんな結構バイトしながら、学校で作業している。伝統的に一回くらいこのビルで泊まらなないと専攻の学生じゃないって言うそういう言い伝えがありました。みんな歯磨きとかロッカーに入れていて、あそこに住んでる人もいます。

おか たくさんの画像をありがとうございます。アメリカってやっぱり違いますね。それでは次に肥後さん、よろしくお願ひいたします。肥後さんの作品はどちらにありますか？

肥後亮祐 (以下：肥後)

倉庫とその向かいにあるガラス容器に入っている作品の二点です。

おか 上のところに糸があって、石をくくってそこから水滴が落ちてくるような作品ですね。倉庫のところが左側にあるって、あれはちょっとした仕掛けがあるんですか？

肥後 仕掛けというか基本的の上から水滴が落ちてくる。仕掛けがあるっていうのは多分蛍光灯の方なんですけど。上から水滴が落ちてくるんですけど、その落ちてきたときの水面の揺れと同期して、真上にある蛍光灯が明滅したりする。

おか チカチカするということですね？

肥後 そうです。見てるときに視覚に入っていない時の蛍光灯がチカチカするので真っ白い壁が光ったりするような効果があります。

おか さらに奥に行くとそれがまた変わった形の壁があって、そこにまた映像が映ってるんですね。あれはどういう映像なんですか？

肥後 石が下の石に接触してるんですよ。その接触してる時に石自体がすごい回ってるんですけど、その回る動きを一点止めていて、その一点で止められている動きが動きそうで動かないような状況。ほぼじっと見ていないと静止画になるんですけど、だまって見ると若干回りそうになったりするんです。

おか そうなんですよ。映像として動いたんで、パッと見たときに。面白いのがちょうど壁の間の中にもさっき言ってたものがあるんですよ。

肥後 壁の中に入ってもらったら、さらにその中に水滴が落ちてくるような作品があって。水滴の音で壁の中を見てくれるかなっていう期待の音。

おか あそこを選んだっていうのは、やっぱり何か実験的なこととか、ちょっとやってみたいと思った感じなんですか？

肥後 倉庫だったのが大きいですね。ホワイトキューブではなくて、倉庫っていう場所性。あまり行かないじゃないですか。そこをある種時間的に止まっているような忘れ去られているような。あまり干渉しない場所。あとは階段があったので、高低差で視界が変わったりとか、向こうに行くと帰ってくる時に振り返ったときに作品があることに気づく。

おか 気がついたんですよそれも。階段を登って降りたら左にあったんですよ。あれは登っているときにこっち側のその階段の横の左側に目線がいくから、わからないんですよ右側が。階段を上って下りてきて分かるように、ちゃんと意図するところがある訳なんですよ。あれはびっくりした。

肥後 光で壁全体が光るとか、あとは高さによって光が変わるとか、奥の映像を見てさらに向こうにあって、帰ってきたときにまたあるという。ある種の意識が切り替わったりとか、リレーされていくような状況を意図的に作り出したいと思って。それが場所としてすごく面白い場所だと思ってここがいいなと。

おか 出てからまたちょうど廊下のところにも作品がある

んですよ。今までご自身が制作されてきた中で、ホワイトキューブのバターの作品が多かったんですか。

肥後 ホワイトキューブのような場所で展示したことはないと思う、いわゆるきちとしたホワイトキューブでは、例えばなんか廊下のちょっとへこんでいる部分とか、どこかの隙間とかそういう部分とかに興味があってそこをベースに展示したりとかして、空間をつくっていくようなことが多かったのかもかもしれません。

おか いつもこの Artist Gate で倉庫の作品って楽しみにしているんですよ。

肥後 ああそうなんですか。

おか さっき仰ったように階段があったりとか、見え方が変わるじゃないですか。大概皆さんこちら側の左のまですそこに展示をしまして、奥にあったりとかして。帰ってきてから、また左にあったりとか、廊下にあったりとか気がつきや発見があるから、ある意味アートがわからない人も楽しめるというか。

肥後 本当ですか、ありがとうございます。

おか 自分自身で発見ができるというのがすごく僕は楽しかったです。

大学はどちらでしたっけ？

肥後 学部の時京都精華大学なんですけど、今は京都市立芸大にいます。修士です。

おか それでは肥後さんの持ってきていただいた画像を見ましょう。



肥後 僕は元々学部は版画になるんですけど、そのときにリトグラフという石を使った版画をやっているときの工房の様子です。

おか これが工房なんですか？結構大きいですね。

肥後 そうですね、比較的大きいと思います。

おか はい続いて。



肥後 これは乾かしているときの写真です。

おか 右が作品ですか？

肥後 そうですね。

おか はい続いて。

肥後 これは工房の中でカ

レーパーティーをしているときの様子です。



おか これ下にあるカラフルなやつあるじゃないですか？

肥後 たぶん誰かの絵だと思うんですけど、僕も呼ばれて行ったんでちょっとよく分からなくて。たぶん

誰かが描いた絵が下になってると思います。

おか これナンですか？

肥後 ナンだと思います。

おか ナンを揚げてそれにカレーをつけて食べるということですか。美味しかったですか？

肥後 美味しかったです。

おか こんなパーティーとかはよくあるんですか？

肥後 なんか卒業する前に同期の子がカレーパーティーをやるので来ませんでしたって言われて。

おか 急に腹減ってきた。次あるんですか。

肥後 これコンクリートを運んでるんですけど。

おか コンクリート？

肥後 今回の展示でも使ったんですけど。コンクリートあれ一個二十五キロくらいあって、全部で三百キロくらいあるんですよ。それを移動させようと思ってたんですけど、逆にコンクリートに引っ張られて、それを止めている様子です。

おか なんかあの下にスケボーがあったらちょうど似合う感じやねんけど、ちょうど今ストップをかけて、ストップになってるというか。

肥後 ストップかけてるんですけど、かかってなくて。たぶん引きずられていっています。

おか 三百キロはすごいですね。続いては？



肥後 これは蛍光灯を設置しているときの様子です。

おか 蛍光灯を設置？

あつ、展示のときに。

肥後 そうです。

おか そんなこともやっぱりしれないいけないねんな。まあでも、制作をしているところってやっぱり大

変なんや。三百キロのコンクリートを持って行ったりとかせなあかんねんから。さっきは全部用意してくれた訳でしょ。

■アーティストトーク

カメラとか、あれは全部用意してくれるんですか、ああい
ういろんな機材とか、ああいコンクリートとかっていう
のは。

肥後 コンクリートはまあ買いに行くのは手伝っていた
できましたけど。

おか あんなは買に行かないといけない？

肥後 そうですね。

おか ほんで機材とかは大学側が全部やってくれるんでしょ？

肥後 機材は基本的に自分で買っていくって。

おか ちなみにあのコンクリートって高いんですか？あれ
でなんぼくらいするんですか。あのひとかたまり三百キロで。

肥後 三百キロですか。一枚七〜八百円くらい。

おか そんな安いんですかコンクリートって。ありがと
うございました。さあ最後になりました、森井さんです。
よろしくをお願いします。作品はこちらの？

森井沙季（以下：森井）

こちらの三点になります。

おか どういった作品でしょうか？

森井 私のこの三点の作品は、人々の脳内風景、心象風
景というものをテーマとして描いていて、私が惹かれる
テーマとして光と闇とか、表と裏、現実と虚構、こうやっ
て他者に向けてる自分と、一人にいる時の自分とかそう
いう相反する要素が互いに共存している場面というのが
私の中で魅力的だと感じていて頭の中でも相反する要素
が常に互いを飲み込みあって脳内でぐるぐるとしている
と思っていて、作品形態はぶらして描いてるんですけど、
そうやってこういう単語が互いにくるぐると組み合わせ
るといった動画的な感じだと思ってそれでぶらすって
いう手法を使って描いています。

おか これは実際にある場所ですか？

森井 これはアメリカのディズニーランドですね。

おか アメリカのディズニーランド。これはメリーゴーランド？

森井 これはなんか、すごいぶらしているので実物は全
然違うんですけど、下のやつが乗れるようになっていて、
くるくる回るやつなんですけど。乗っていないのであれ
なんですけど。

おか 綺麗ですね。これは分かりやすいですよ。シャ
ンデリアですね。

森井 そうですね。今回こちらが卒展の作品で、こっ
ちの二点が今回の展示に向けて少しコンセプトを変えて描
いたものです。今回の作品は視覚が及ぼす世界の歪曲つ

ていう…ちょっと難しいんですけど、テーマにしよう
と、思っていて。この二つ実家にあるものなんです。シャ
ンデリアと犬のぬいぐるみ。このシャンデリアだと、私
の家が三人家族なんですけども父母私。父は事情で家に
今居なくて、私も大学は京都なので下宿していて、母
親が一人だけのお家なんです。このシャンデリアがあっ
たときは、まだ家族が三人一緒に居てたときなんですけ
ども、家族が居てる時よりも、母親が一人だけの現実。
不在のときの方がこのシャンデリアはすごい輝いて見え
ていて多分それはそういう今家族が揃わないっていうこ
との現実的な裏付けの中、シャンデリアの光が嫌味に見
えて、禍々しいみたいなの。

おか シャンデリアを通した家族というものをね、心
の中にそういうものを閉じ込められているということす
よね、この作品の中にね。これは？

森井 これは犬のぬいぐるみですね。

おか ぬいぐるみ？これは小さいときからずっと持っ
てるやつですか？

森井 そうですね。私の子供部屋に母親が趣味で置いて
たもので、どちらも共通して言えるのが命を持たない物
質。こうやって愛らしいじゃないですか、犬の結構リアル
なぬいぐるみなんですけど。シャンデリアもこういう
犬もそういうなんか命を持たないものが、こうやって愛
らしいシャンデリアの美しいっていう華々しさ、でその
華々しさに逃避とか現実の喪失への埋め合わせになった
時の視覚、目で捉えるものの歪曲みたいな。この絵だけ
を見ているとなんかシャンデリアがあって綺麗だなーみ
たいな、この家は金持ちなんだなーってなるんですけど
も全然そうじゃなくて、なんかそういう物質が与える光
のロマンチズムのある意味空虚さ。その空虚さがある
からこそその美しさ。最初に言ったようにこういった相反
する二つの要素を持つものに惹かれるんです。

おか 一つの言葉、一つの空虚さに引っ張られていっ
て何かに気がつくみたいなのころっていうのは、すごく面
白いですね。そういった意味でいうとそこに家族が隠さ
れていたたり、幼い頃小さい頃からこういったものがある
という。ある意味セルフポートレイト的な作品になるの
かもしれないですね。

森井 かもしれないですね。でも、こうやって私が抱え
ている家族とか、今までの夢とか、将来のこととか、結
構そういう漠然とした不安感を割と表現していて、そ

れて皆さんにも言えることじゃないかと思って、私の
物語でありながら現代の人々に共通する脳内にある悩み
とかそういう要素なのではないかと思えます。

おか それでは画像の方をお願いいたします。これは
制作してる途中？



森井 そうですね。写真は
この一枚だけです。

おか あれはスカートです
か？

森井 作業着でスカートを穿いています。

おか スカートの作業着って珍しくないですか？

森井 つなぎとか多いですよ。ジャージとかも。

おか スカートって…なんで？って聞くのもアレですけ
ど、動きやすいから？

森井 そうですね。あとは、つなぎだと着替えがもた
たしちゃうじゃないですか？スカートだとどの状態でも
カポってかぶったら五秒くらいで着替えられるんで。

おか 右に花が咲いてるみたいに見えるのは筆ですか？

森井 あれはマグカップにつこんでる筆たちですね。

おか これはご自分の筆ですか？全部？

森井 そうですね。

おか これだけ使い分けるんですか？

森井 そうですね。結構色が濁るのがちょっと怖いので
割と筆は色ごとに分けたいなあって。結構いっぱい
あるんですけど、めっちゃめっちゃ固まってる筆もあるので
全部使ってる訳ではないんですけど。

おか これ今写っている部分っていうのはご本人が描い
ている場所ですけど、周りも同じように制作している感
じなんですか？

森井 そうですね。私が学部の時はお絵描きコースだったん
ですけど、全然みんながみんな油絵っていうわけではな
くて、アニメーションつくってる人も居ましたし。私
は油絵だからイーゼルに立てて描いてるって感じてした。

おか 大学はどちらでしたっけ？

森井 京都造形芸術大学です。

おか 京都造形芸術大学は一言で言うとどんな大学ですか？

森井 一言で言うと、社会を常に意識させる大学だっ
て思えます。

おか 卒展なんかでも学外から来てね、お祭りというか、
そういった感じの大学ですもんね。

森井 結構華やかですね。

おか ありがとうございます。そしてもう一人いらっ
しゃるんですけど、欠席されてる方がいらっしゃるんで
すよね。それは松長さんから説明をしていただきたいと
思います。

松長 早石萌莉さんという方の作品で room3 の部屋に
展示しています。木を彫って巨大なエビの頭部をつくっ
ている作品です。深海をイメージするため、部屋を真っ
暗にして青いライトで照らしています。

おか 京都精華大学の彫刻を卒業されたんですね。何
かご本人のコメントみたいなのはありませんか？

松長 なぜエビを作ったんですか？と聞いたんですが、
節足動物とか骨格みたいなカクカクって曲がる部分が好
きだと仰っていました。この前は金属、鉄でタツノオト
シゴを制作していたり。今回なんで木で卒展の作品をつ
くることになったのかということ、彫り続けてできるまで
の時間というのが、自分の制作スタイルに合っているか
ら木で彫っていこう考えたということを抑っていました。
金属は割とスピード的には早くできちゃうので、もっ
とゆっくり刻みながら、時間を掛けて作り上げたかった
というのが卒展でこの素材を選んだ理由だそうです。

おか 卒展で見たときのイメージとここで見たときの印
象は全然違いますね。

松長 そうですね。卒展のときは、他の学生と一緒にア
トリエの空間で展示したんですけど、本人はもっと暗く
したかったらしいです。他の作品もあるのでそういうこ
とができなかったらしいんですけど、ここはひとつの部
屋で彼女の作品だけ展示することができるので、基本
的に照明以外は遮光をして真っ暗にして、照明が明るい
ので真っ暗にはならないんですけども、そういう作品の展
示方法にしています。作品自体は実は脚の部分が動くん
です。可動するのがこだわってつくったところでもある
らしくて。もちろん触って動かせるということではなく
て、この位置で足を止めてあるけど、位置を変えよう
と思えば変えられるという作品になっている。可動部分
は金属が埋まっっていて、そこが本当に関節のように動く
ようになっている。

おか 影がなんとも言えませぬ。

松長 影に今回こだわって壁面も当初は黒いカーテンの
ままっていうことで展示を始めたんですけど、やはり影
をもうちょっと出したいと変わってきたので、白い壁を
新たに加えてつくりました。

おか なんとも言えない深海のイメージってよく NHK スペシャルでやっているじゃないですか、ダイオウイカとか。本当にこんな巨大生物とかおつたらね。いきなりそれが注目されて、どんなきっかけでどうなるか分かりませんから。

さあ皆さんですね、ここまでで作品っていうのは、どんなものか分かっていたかと思うのでね、自分は何がターニングポイントでこうなったのかということをしてですね、スケッチブックに書いていただいていますので、それを皆さんに見せていただきたいと思います。どうぞお書き下さい。書いてるものならそのまま置いて伏せていただいて結構です。

まあ私おかけんたのターニングポイントというのは、やっぱりあの「4時ですよ〜だ」という番組。ダウンタウンが大阪におつた頃に、月曜日から金曜日の夕方にやってたんですけども。それに声を掛けていただいたというのが、多分私はターニングポイントかなと感じています。ダウンタウンと僕と三人でラジオをやっていたんですけども。そのときにですね、やっぱりいろんなネタの勉強になりました。お互いがこのネタうちでできへんからダウンタウンでやる？とか、ダウンタウンがこれうちでできへんからけんたゆうたでやる？っていうような交換をしたりとか。これで自分自身もちょっと変わっていったかなというような、ターニングポイントはあります。

それでは皆さん書いていただけたでしょうかね。それではまず鈴木さんからターニングポイントを見せていただけますか。消しゴム？

鈴木 えっとなんかおもしろ消しゴムっていう、百均とかで売っている、ケーキとか動物とかいろんなかたちが、あれって分解できるじゃないですか。あれの分解方法がものすごく意外で面白くて、小さい頃から好きやったんですけど、それを改めて見て分解をテーマにしようという風に思いました。

おか まさか消しゴムからあの作品が生まれてるんですか？

鈴木 まあ理由は何個かあるんですけど、だいぶ大きいウエイトを占めているのが、おもしろ消しゴムです。

おか 絶対皆さん、これから文房具屋さん行って消しゴムを見にいくと思いますよ。そのおもしろ消しゴム。何個くらい持っているんですか？

鈴木 まあ百個くらい。

おか すげー、百個消しゴム持ってるんですか。

鈴木 何個か持ってきてます。

おか あとで見せていただきたい。

鈴木 結構コレクターの方っていらっしやるんですけど、レアな消しゴムを手に入れたりとか、割とそういうことをインスタに上げてる人とかがいらっしやあって。限定商品みたいなのとか。そういうことじゃないんだよっていう風に私は思ってる。どういう風に分解できるかが、あの消しゴムの一番の醍醐味だと思って。

おか 消しゴムによって、その分解のされ方が違うっていうことですか？

鈴木 そうなんです。一見すごいかわいい虎とか牛とか見た目つるんとしてすごいかわいいんですけど、なんか分解した様子がすごい気持ち悪い。

おか なるほどね。例えばものすごい勇ましい虎とか、ぐわーっと口開けてるのも分解していったらなんのこっちゃわかりませんからね。かたち的に言ったらね。だいたい何パーツくらいになります？

鈴木 色でパーツくらいです。首とか取れたりするんですけど、虎だったら、黒い部分と黄色い部分の頭と体があるので四パーツくらいですかね。

おか それを見たことが今の作品に繋がっていったということですか？

鈴木 そうですね。

おか それまでは虎であるとか、そういう生物。なんでもいけますけど、静物とかの花の版画などを制作されたということですか？

鈴木 それまでお風呂とか、トイレとか水回りが好きで水回りの作品を作ってたんです。

おか 水回りの次が消しゴム？

鈴木 はい。

おか それは風呂が好きとか、洗濯が好きとかっていうことなんですか？

鈴木 そういうことではなくて、家の中で普通乾いてるじゃないですか？けど水回りだけ湿ってて。普通配管とかって床の中とか壁の中に入って、実は水が近くを通っているのに見えないけど、蛇口をひねって排水溝に入る一瞬だけ水が屋内に露出する瞬間があると思って。みんな全然当たり前かと思ってるけど、よく考えたらこれおかしいぞって思ってる。

おか その水が見えるというのがおかしいと？

鈴木 今は家の中に水が出てくるってすごい変やなって

思ってる。昔は井戸とかに汲みに行かないといけなかったはずじゃないですか？

おか 考えたら水って確かに蛇口からやったら数十センチのところからすぐに下水いきますもんね。見えるところ言うたら一瞬やわ。俺も今それ気がついたわ。

鈴木 お風呂とか洗面台って受け皿になっているところで形状がすごい面白いと思って。

おか 消しゴムがターニングポイントかあ。ありがとうございました。それでは高畑さんのターニングポイント教えてもらっていいですか？グリーンマンション？

高畑 グリーンマンションっていうマンションが私が初めて下宿したマンションなんです。

おか グリーンマンションってどんなマンションなんですか？

高畑 普通の古いアパートです。

おか グリーンではないんですか？

高畑 グリーンではないんですけど、グリーンマンションっていう名前のアパートに住んでました。

おか どういう造りなんですか？

高畑 二階建てで、文化住宅みたいな古いアパートで隣の隣におばちゃん住んでるんですけど、見た感じ怖いおばちゃん。急に私の部屋にピンポン押してきて、行ったらやばいんちゃうかって思ったんですけど、行っちゃったんですよ。

おか 来て欲しいって言われて行ったの!? そのひとの家に。

高畑 ほんまにテレビがつかんくなって困ってただけやったんで、なんでなんかなくて思って電源を押したら主電源が切れて、解決したんですけど。最後にミルクティーをくれました。

おか そのお母さんからしたら、主電源をつけてくれたから「あんたええ子やな」ってミルクティーをご馳走してくれはった訳や。それが作品にどう繋がっていくんやろ？グリーンマンションでおばちゃんおって、ミルクティーをご馳走になった。ほんで？

高畑 おばちゃん関係なくて。

おか ないんかいな。

高畑 友達とルームシェアしてて、その子と話したり遊んだりするようになってから、作品も変わっていったというか、版画の作品じゃなくてもっと違うことしたいな思うようになって。グリーンマンションに住まなかったら今の自分はなかったなと。

おか その友達には刺激を受けたというか、そういうかたちということですか？

高畑 刺激もありますし、一緒に遊びに行ったりとか、話したりしていくうちに、自分の作品が面白くないなって思ひ始めて変わりました。

おか さっき言ってたように、四年生という時にこういうかたちになっていった。つまり、最後の一年間でっていう話をされてたじゃないですか。それがようするに友達がずっとそのグリーンマンションに来てて、急にやっぱりポンとこう一瞬自分の中でも「あつ」っていうようなことがあったっていうことですか。

高畑 徐々に話したりしていく内になって感じですね。

おか ほんでこれをちょっとこんなことをやってみようかという。その友達はちなみに芸術系の大学に行ってる人なんですか。

高畑 同じ大学に通ってる子です。

おか その人はこの作品を見てなんか言いました？

高畑 なんか言ってたかな？いや、あんまり覚えてないです。

おか でもそこから影響されたって、本人はそんなこと分かってないでしょ？

高畑 はい。

おか でもその人がいなかったらこんな作品になっていなかった。

高畑 多分、なっていなかったかなと思います。

おか 今はグリーンマンションは？

高畑 今はもう住んでいないです。

おか 次の入ってきた学生さんがひよっとしたら同じ体験して、ターニングポイントになって何年後にここに選ばれてまたグリーンマンションって書く人が出てくるかも分からへんもんね。しかし面白いな、ありがとうございました。

さあ、范さんのターニングポイントはなんでしょうか。中学二年生の時のサマーキャンプ？

范 作品のターニングポイントはあまりないかもしれない、これは人生のターニングポイント。

おか その中学二年生の時のサマーキャンプってなんですか？

范 中学二年生のときにイギリスに三週間のサマーキャンプに行きまして。

おか イギリスはどこですか？

范 結構田舎の方、月曜日から金曜日までは半日授業を

■アーティストトーク

して、半日遊びで週末はロンドンとかオックスフォードとかそういうところに行って。

月曜日から金曜日授業をするときすごく感じたのは、こういう勉強の仕方もあります。みんなと一緒にじゃなくて、自分の分からないところで聞いて、みんなと話しながらそういう勉強のやり方もあって。そこからすごく海外に行きたいアイデアが生まれて、高校一年生のときに一年間掛かってお母さんを説得してアメリカに行きました。**おか** そのサマーキャンプ、もちろん中国に居て、イギリスの方に行って三週間で海外っていいとか、いろんなことが何かめぐるってきたってということですか？

范 はい、昔は勉強がすごく苦手で、覚えるのがすごく苦手で、例えばテストする時は必ず胃が本当に痛くなる。中国のセンター試験は一回しかチャンスがない。それを考えたらもう死にそうになって絶対ここにいると未来がないと思ってて。

おか すごい行動派やね、考えたら。

范 すごく逃げたかった。

おか さっきからずっと聞いていると、すごく逃げたいイメージがありますよね。

范 そうですね、小さいときから年齢のすごく近いことと一緒に育ってきたんですけど、彼女は全部私よりなんでもできます。ずっと比べられてて、私何もできないと思ってたんです。自信がなくて私は存在する意味あるのかなと思ってた。

おか それはいつのときですか？

范 結構小さいときから、小学生のとき。

おか 小学生のときに私存在して意味あるのかなって、普通考えますか。

范 何もできないから。

おか グリーンマンションで考えないでしょ、そんなこと。

高畑 考えなかったです。

おか 普通、そんなことみんな考えるんですか中国の人って？

范 いや、だから私はちょっと違うのかなと思ってて。

おか すごいね、せやけど。小学校のときなんか腹減ったしか考えてなかったな。イギリスでなんかお土産何か買って来たんですか、楽しい思い出とかあったりしたんですか。

范 授業するときに、やっぱり楽しい授業をするのが初めて。授業をするとき、毎回授業するのが気持ちが悪くなるようになくて。呼ばれるときも答えれなくて、結構私たぶんこのままじゃ何もできなくて。で、イギリスに行って授

業の中、みんな普通に話してて分からないところがあって普通に聞いても何も言われないうです。学校で分からないことがあったら、先生とかお母さんとかお父さんから言われるじゃないですか。なんであなたしっかり勉強してないって怒られるじゃないですか。そういうことがあるから、海外の勉強の仕方が私には向いているのかなと思って。

おか これサマーキャンプといっても、キャンプをする訳ではないんですね。

范 違います。中国の呼び方なんで、日本ではどういう呼び方をするんですか。

おか 僕らでいうユースホステルっていうところがあるんですけど。だいたい学生時代とか小学生のときとかユースホステルとかそういうところに泊まったりとか、国民宿舎とか言われるところに行ったりするんですけど、そういうところに泊まっていたということですか？**范** 実はホストファミリーがあって、普通のイギリス人の家に泊まって、普通に学校に通うように三週間ホームステイしていました。

おか ホームステイしてたんですか。ということはイギリス人やから英語ですよな。

范 英語です、私あのときは英語本当に何もできなくて。面白い話があります、私エビアレルギーなんです。食べた喉の中が痒くなって、死にそうになる。

おか カーッとする訳ね。

范 はい、ホームステイ先の家に午後に着いてチャーハンがありました。食べないかと言われて、食べたらエビが入っていました。

おか ホームステイ先の人美味しいものを食べさせてあげようと思って、作ってくれた訳や。

范 実は私はお酢を飲んだら良くなります。

おか お酢を飲んだら治るの？

范 治ります。おかしい話をしてますが本当に治ります。

おか それアレルギー違うんちゃうかな。

范 アレルギーです。病院でテストをしました。

おか ほんで喉が痒くなったわけや。

范 あのときお酢の英語知らなくて、二階に泊まっていたんですけど、二階の荷物の中に電子辞典探さないといけない。死にそうになってるんですけど、探さないといけない。お酢をくださいで電子辞典で調べて、これくださいって言って、良くなったんですけど。あれはすごく記憶に残りました。お酢さえ喋れなくてイギリスに行きました。

おか アレルギーってそんなんで治るもんなんですか？

范 私がたぶんおかしいのかもしれませんがね。

おか 海外に行ったことによって今の現在がある。なんというか独立性があるというか自己主張がしっかりしているというか。周りの人もみんなそんな感じではなかったんでしょ？

范 そうですね。私もお父さんお母さんの言う通りにする人の方が多いですね。私結構小さい時から反発してるかもしれない。

おか そういう方から見て日本人ってどうですか？みんな割とすぐに頭下げたりとか、あまり主張しないとかって海外の人から見たらそんなんよう言われるけど、中国の人がそういう形で日本人見たらどうなんですか？中国と日本やたらどっちが合いますか？

范 私今は日本に住んでいるので、日本は便利。なんでも手に入るから。日本、大阪はちょっと違うかもしれない。大阪来る前に東京に住んでいて。ちょっと冷たい。人と人の距離が。

おか 冷たい？

范 日本語は曖昧じゃないですか。「行けたら行く」とか。「少くない？」とか。

おか 「今度こんなパーティーあるねんけど」「行けたら行くわ」っていうことですか？

范 少くないって言う言い方もあります。

おか 「これちょっと少くない？」とか。

范 そうです。少なく、ない？私結構こういう曖昧なものが苦手です。

おか どっちかというとはっきりしてほしい？

范 大阪の人と合うと思う。

おか 大阪ははっきり言われた？

范 東京より、話してるときは意見をはっきり言ってくれる。

おか 大阪に来た時に自分はこちらの方が合うと思った訳ですね。

范 東京は人が多い。朝電車乗ってるるとき死にそうになった。

おか そういう意味ではサマーキャンプっていうところで海外の経験をしてから東京も経験して大阪も経験して、今は大阪で活動されているということですね。ありがとうございました。肥後さんは何なんでしょう。楽しみですね。どうぞ。「PD」？

肥後 先ほどスライドで版画に居たと言ったんですけど、大学に入った時は芸術学部じゃなくてデザイン学部で居て。

おか デザイン学部で居たん？

肥後 そうなんです。デザインに三年までいたので年数的にはデザインの方に長く居てて。

おか プロダクトデザインって言うんですね。

肥後 そうですね。プロダクトデザインの、正確に言うとライフクリエイションコース、インテリアとか建築とかそっちの方に居たんです。

おか そっち行ってたんですか。

肥後 そうなんです。それで店舗の図面を描いたりとか、樹脂でジョウロをつくったりとか、金属叩いたりとか、最後の方は桶とかつくってました。いろいろデザインに関することをやってて。

おか プロダクトデザインやっていたとは全然分らなかったです。そういうものをずっとやっていてなぜ次に版画に行ったんですか？

肥後 カリキュラムの中でデザインの商品のブランディング、企業と連携して何かをつくるということはよくやるんですけど、カリキュラムの中にちょっとデザイン的な考えではない、頭を使うような授業がありまして、その中でいろいろ技術に触れる機会があって。それまで芸術学部は何をやっているのかよく分からなくて、正直あまり関心がなかったんですけど、そのPDの時の授業がきっかけで美術らしいものがあると。よく分からないことをやっているところがあると。最初ぱっと見ではよく分からないし、無駄なものを使ったりするし、よく分からないけど、なんか面白いなと思いついて、そがきっかけで徐々に展覧会を見に行ったりとか。

おか プロダクトデザインの人って展覧会とかあまり見に行かないんですか？

肥後 基本的に僕はあまり見に行っていなかったです。例えばプロダクトデザインでも展示はあると思うんですけど、頻繁にコマーシャルギャラリーに行くとかってというのは、あんまりなかったですね。行く機会もなかったの。それをきっかけに行ってみようかなと思ったりして、行ったり、作家さんの手伝いをしてる内にだんだんそっちの方面に足をつっこんで行き、結果的に転学しようと思って今この場所に居ます。

おか カッコいいですね、ということは、もし版画科の方に入っていたら、抜け出していた可能性もありますね。

■アーティストトーク

肥後 どうなんですかね。

おか プロダクトデザインを最初に選んだということが、意味があるんじゃないですか？

肥後 高校のときは普通の四年制大学、理系の大学に行こうかなって思ってた、ギリギリになって芸術大学っていうのがあるって知って、行きたいなって思ってた。その時にはとぎすでに遅しでデッサンとかやる暇もなくて。

おか 芸術大学がいいなって思ったときは高校三年生のときですか？

肥後 そうですね、芸術大学っていうのがデザインとかテクノロジー的なものに興味があって、かたちがかっこいいとかメカニックなものが好きとかいうそういう延長だったと思うんです。

おか そういうところに行こうと思ったのは何月くらいだったんですか？

肥後 一年は切ってたなと思います。

おか その時にもうそういうところに行ってみようと思ったんですか？

肥後 行ってみようと思いました。

おか デザイナーとかプロダクトデザインとかそういうのを目指して。

肥後 そうですね。

おか それで大学受けてやっていったら、ちょっと自分の中で違うなと思ってきて。今やってる作品というのは、これがあったからこそ延長線上で繋がっているということなんですね。

肥後 そうですね。

おか 面白いですね、そういった意味でいうと、プロダクトデザインからまたこっちにいったらというのがね。

肥後 プロダクトで教えてもらったことは今役立ってますし、よかったなと思ってます。

おか すごいなー。よかった、プロダクトデザインの人がこの中になくて、やっぱり役立つもんですね。ありがとうございました。続いて、森井さん。森井さんのターニングポイントはなんですか？

森井 「就職活動」です。皆さんと比べて、すごい現実味を帯びたワードなんですけど。就職活動がターニングポイントで、私が大学二年生の後半くらいから進路は大学院に行く決めてたんです。自分は大学院に行くと思いつながら過ごしていたんですけど、だいたい三年生の最初か中間あたりに大学のクラスの中で、クラスメイトを

集めて、先生が「この中でアーティストになりたいやつ手を挙げて」と仰ったんですよ。私はそこで手を挙げられなくて。そのあと先生が仰ったのが「ここで挙げられないやつは、アーティストになんかなれないよ」って仰ったんですね。結構その言葉がずっと絵を描いてるときでも頭の片隅にいて。アーティストになるっていうことの質問に対してその時は割と否定的な言葉でしか返せてなくて。それでも絵は描くっていう状況が四年生の最初あたりまで続いていて。それもあってか分からないんですけど、絵の方もあまりうまくいなくて。やっぱり大学院はアーティストになるために行くものだと思っているので、このままの状態で行っても自分もったいないし、絵を描くのも若干苦しかったので、苦しい思いをしたくないっていうのもあって、そのときはちょうど八月あたりのピークだったので、就職活動をしよう。

おか そこから？二年生のときにそういうことを考えながら、実際には夏から？

森井 急に気分が落ち込んじゃって。通常就活は三月から始まると思うんですけど、私は夏休み明けての九月の中盤あたりから就職活動を始めました。そこで結果的に言うと、就職活動は私の場合は絵画なんですけど、終わりの見えない、完成が…、っていう感覚があるじゃないですか。いい仕事をしたって思っても、次の日朝起きて見たら「なんじゃこりゃ」みたいな。それでずっと見えない出口を永遠と探ってるっていう表現活動に対して、就職活動はエントリー受かりました、第一次受かりましたって明確に結果が来る訳ですよ。自分は人生を歩んでいるなと思って。

おか 実感はそこに湧く訳なんですよ。

森井 湧いて、正直気分的には楽でした。九月っていうと、大学の卒展は二月の九日から始まるので、周りみんな卒展に向けて作品を描いたりするんですけど、私はその中で、まだ下地も生乾きのパネルと…進行度が一割にも満たない作品を横に、エントリーシートを書いていて、その中で就職活動をしていたんですけど、就職活動してて志望動機とか考えたり、企業から来る返事のメールにどうきれいな文書で返そうかなとかその意識を一日の大半に使っていて。気持ちは人生が進んでいるっていう意味では楽なんですけど、漠然とその生きた心地がなくて、何か欠けてるなっていう気持ちが出ていて、その感じで就活はしていたんですけど、一社は落ちて、

二社めの最終面接の時に社長さんにある経緯で、私は営業職を希望していたんですけど、「絵を描いている君なんかいないからね。」と。

おか そんなこと言う、社長さんが。

森井 まあ失礼だなと思って。でもやっぱり最終面接ですし、その時期になると応募してる会社も少ないっていうことで、「そうですね」って言っちゃったんですよ。

おか めっちゃクールですね。

森井 多分目は笑ってなかったと思うんですけど。そうですねって言って、そんな感じで第四次まであったんですけど、それが終わってその後学校に帰ろうとしている電車の中でそのことがぐるぐる回っていて。それに対していやいって、絵を描いている自分を捨てるってどういうことって素直に思えない自分が正直いて。そんな感じで過ごしていたんですけど、なんか知らないんですけど、その面接が通って採用になったんですよ。その第二次面接で反発意識でチャイナ服を着て行ったのに。

おか ちょっと待って。面接の時にチャイナ服着て行った？ちなみに中国でチャイナ服を着るっていうのは正装になるんですか？

范 いや、普通はスーツですね。

おか 中国はスーツらしいよ。

森井 私服は自由って言ってたので。

おか すごいですね。

森井 それでとりあえず一個は内定をもらってたんですけど、行きたい会社じゃないってことで、違う会社に…

おか そこはやめたんや。

森井 そこは最終的にすみませんと。内定が一個決まってもここは行きたくないって思って違うところにはばっかけてたんですけど、でもとりあえず一個内定が取れたって思って、ちょっと安心するじゃないですか？そこでようやく一日の意識を絵に向けることができた日があって。だいたい十一月入ったくらいで。

おか ほんま時間ないね。

森井 ようやく絵に意識を向けることができる日があって、そこでもう絵に向き合ってみると今まで就活に費やした時間のツケが回ってきて全然できてないじゃん、何をしてたんだってなって。ツケが回ってきて頭の中で自分のことを責めていて。それが最初らへんに就活していたとき生きている感じがしないって言ったと思うんですけど、その頭の中でぐるぐるしているのがたまらなく生

きている感じがして。

おか そういうことで自分がやっと気付いたというか、やっと生きる心地ということをそこで発見したわけや。そのきっかけが就職活動ということなんや。

森井 そのおかげでそのまま三日後くらいにあんまり覚えてないんですけどさーと内定蹴って、さーとはっばかけてた会社にやっぱり辞めず、すみませんって送って。でもなんかそうやってアーティストになりたいっていうことを、ちょっとあんまり強い人間ではないのでパツと言える人間ではなかったんで、そのことが負荷になって、絵と誠実に向き合うことから逃げてた自分がいて。でもそうやってこう自分にとって表現行為はたまらなく生きてるってことを実感できる、そういう人間なんだって思って。ずっとかっこいい絵を描き続けたいかっていう質問に対してはすくにはいって答えられるようになったのも就職活動のおかげかなって思って。

おか 一本の映画を観てみたいですね。でもあれじゃないですか、結局その大学三年のときにその先生が言ったことがずっと頭に残っていて、それが言うたらトラウマじゃないけどもずっとあって、最終的にそれがどっか残ってたんかもしれませんね。結局大学入った時に自分はアーティストっていうものを目指して入って来たっていう、もわーんとしたものはあったんだけど、しっかりとそこでビジョンとして確立したってことですね。で、この作品を制作したっていうことですね。

森井 そうですね。そっからが本当の地獄でしたね。

おか 十一月から掛かったんですよ。正式には。

森井 その作品はだいたい本番で始めてきたのが十二月の二十日くらいですね。

おか どのくらい時間掛かったんですか？

森井 卒展が二月の九日からだったので大体二ヶ月くらいですね。

おか 二ヶ月くらいでこれをやったら。まさか就職活動がターニングポイントっていうのはちょっとすごく…皆さんどうですか？意外ですよ、そういう話っていうのは。ありがとうございました。皆さんお聞きいただいた通り、大学でこういうことを学んだり生活している中でターニングポイントがあり、現在作品制作をしていますということをご理解いただけましたでしょうか。さあ三つ目は何をするかというと、先ほどチラッと写ったりしてましたけど、アトリエと言いま

■アーティストトーク

して制作をしている現場から、皆さん一人一人にそこにあるものを持ってきていただいています。つまり、その人がアトリエでどういった制作活動をしているのか？そういうことが垣間見れるということなんです。お待たせしました。たぶんあれが出て来るんですね、鈴木さん。

鈴木 小さいんでちょっと分かりづらいかもしれないんですけど。

おか これ？さっき言ってた？これどう分解するんですか？これがどうなるんですか？

鈴木 黒の部分は製作の工程上、細かくなっちゃったら困るので繋がってて。なんかマスクみたいな。

おか ほんまや、タイガーマスクや。

鈴木 目とか鼻とか柄の部分が黄になってて、そこに穴の開いたマスク状の。

おか 穴開いてますわ、これ。まさか五十八歳にして皆さんに消しゴムを見せるとは思いませんでした。

鈴木 体とかも…

おか 体もバラバラになるんや。どうなるのこれ？中の黒い型というか…あっ、首とれた！ええー！今日一番の皆さんの「ええー」やね。また後で見てくださいね。これはケーキですね。

鈴木 ケーキも普通に見えるじゃないですか？可愛いケーキで。でもなんか開けたら、こういう状態になっていて。イチゴが全部中で繋がっていて、クリーム部分が穴になっている。挿したらちゃんとケーキに。

おか 鈴木さん、面白いわこれ！

鈴木 そうでしょ！？サンタとかね、めちゃくちゃ面白いんですよ。

おか サンタはどうなるの？

鈴木 サンタはね、白い部分が同じパーツなんですよ。ひげと服の白い部分が一個のパーツで、顔とかも…

おか 顔も取れるの？うわっ、ええー！

鈴木 サンタって普通子供に夢を与えるみたいな、可愛いもんやと思うんですけど、それを無情にも分解する。

おか はっきり言うけど、夢を壊してるもんね。

鈴木 これを製作してるイワコーっていう会社の人は別にそういう面白い分解をしたい訳じゃなく、工場の生産ライン上、仕方がなくて効率よくするために白のパーツをまとめているっていう。そこに面白いと思ってやっている訳じゃないっていうところが面白いなって。

おか 工場の広報の人みたい。ちょっと待って、これちゃ

んとつくれるの？元に戻せる？サンタさんつくれる？すごいね。これをアトリエのところにも置いてるということですか？

鈴木 家に持って帰ったり、学校に持って行ったり、持ち歩いて。今飾ってある作品は分解したものが現実の法則に従ってるというか、りんごの箱を分解したら、ほんまに中がそうなっているようにりんごが割れていると思うんですけど、次からは、実際にはありえないような形に分解するっていう。それでちょっと人をくすつと笑わせられる作品をつくりたいなって思ってます。

おか 今日のゲストは消しゴム博士の…、いや違うわ。へえー、面白いですね。ほんと博士になれますよ。後で皆さんもよかったら手に取ってみてください。続いて高畑さんのアトリエにあるものを。楽しいですねが出てくるのかね。

高畑 ここから歩いて五分くらいのところにあるスーパーの箸の袋で、可愛いなって思ってたやつを壁に貼ってます。

おか えっ？

高畑 作品にはあんまり関係ないかもしれないけど。

おか そんなことないと思うけど、まだ何か出てくる？

高畑 石です。

おか えっ？

高畑 平べったい石をいいなーと思ってて、部屋に飾ってます。アトリエというか自分の部屋で作業しているので。

おか これは？

高畑 アイススクリームのふたです。コンビニとかで売ってるような。

おか これは？

高畑 飾ってます。作品には使ってないです。

おか 壁に貼ってるってことですか？

高畑 壁に貼ってます。アイススクリームのスプーンとか延着証明とかそういうの集めてて。

おか アイススクリームのスプーン飾ってるんですか？

高畑 木のやつとか。身近にあるものを集めるのが好きで。

おか こういうものを飾ってたらほっとする？

高畑 ほっとします。

おか 例えば、これ一個無くなったりしたらどうなるんですか？

高畑 無くなってもそんなに…。

おか えっ？大事なものでしょ、これ。

高畑 大事やけど、無くなったらしゃあないですよ。そういう日もありますから。

おか この三つの中で一番愛着あるのはどれなんですか？

高畑 愛着あるのはスーパーマルハチが…。

おか 確かに裏のこれ可愛いな。パッケージというか。

高畑 こっちが私は表やと思ってて…。これがすごい好きで。

おか あ、Mr.さんとか奈良美智さんとかもそうなんですけど、ここにドロ잉とか描いたりして…

高畑 とかはしないで。

おか それはしない？ここに飾ってるのが楽しい？

高畑 壁を作っていくのが好きでやっぱり。

おか なるほど、これで壁を作るのが楽しいんだ。僕も含めたコレクターなんかも、壁に作品を埋め尽くしていくという傾向があるんですけど、それに近いですよ。

高畑 近いですね。

おか いやーすごい、これでお腹いっぱいやわ…。さあ、范さんは何なんですか？

范 変わってるものじゃないんですけど、大学のとき暗室で印刷した写真です。普通のプリンターじゃなくて、暗室で大きなところ。暗い部屋に入って、引き伸ばし機で光を当てて印刷します。暗い部屋にるとすごく落ち着けるから結構中にいて、五時間くらいずっと。

おか 暗室におれるんや。そういうところが落ち着くというか。

范 紙も普通の紙と違って印刷する前に光に当たったら終わります。印刷する前に絶対黒い袋に入っていてそのまま持って行って真っ暗の中で作業します。

おか これってずっとアトリエに置いてて、たまに見たりするんですか？

范 しますね。これは大学の時住んでいたアパートの近く、家の周りです。

おか それをずっと撮ってた訳や。たまにこういうの見たらあのときこうやったなとか思い出したりするんですか？

范 そうですね。

おか 一番現実的というか、どちらかというね。だから、ある意味家族って身の回りのものじゃないですか？身の回りのものの中に、何か一つちょっとしたヒントが隠されているのかなあ、范さんの場合。

范 環境に影響される人だから、ここにいるのは作品として大きな影響与えるから、環境とか周りの人とか結構

いろいろ影響されて作品をつくります。

おか 例えば友達の家行って、こんな壁に貼ってたらどう思います？

范 わたしは面白いと思う。

おか やっぱり芸術家やな。ありがとございます。続いて肥後さん、何でしょうか？

肥後 二つあって、一つは持ってくるので、その間…

おか 何ですか？

肥後 カメラです。

おか これカメラなんですか？昔のカメラなんですか？

肥後 そうです、昔のカメラです。

おか これ写るんですか？

肥後 修復したら写ります。でもフィルムをここに掛けます。

おか あっこれフィルム掛けるとこなんだ。

肥後 ここで巻いて、多分ここで写ります。

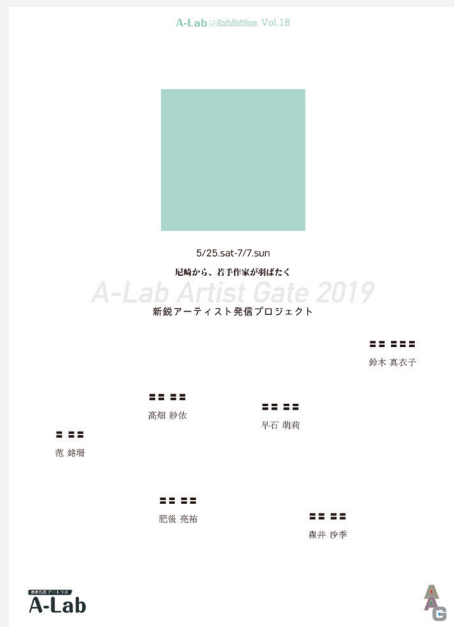
おか ここでやるんや。結構古い…何を持ってきてんねん！

肥後 置き場所と使えなくて困ってるものです。このカメラは蚤の市で買ったんですけど、すごいちっちゃいのにめっちゃこやう…シャッターが切れて。ここから光が入って後ろにフィルムがあって写真ができるんですけど、こんな小さいのにちゃんと撮れるんやなって思ったんですけど、実はフィルムがすごい特殊なので使えなくて、結局使えないままずっとあって、これどうしようかになって思って、文鎮になってるんです。もう一つは蛍光灯なんですけど、これは卒制のときに使ったやつなんですけど、モノタロウで買ったんですけど、結構大きくて、蛍光灯ってなかなか使うことがなくて困ってて。

おか 使うから買ったんじゃないんですか？

肥後 使ったんですけど、今回の展示では使ってなくて、卒制の展示で使ったんですけど、あつそのときの話をすると、全然関係ないかもしれないんですけど、蛍光灯設置して、そこにある蛍光灯を取り替えたりずらしたりしてたんですよ卒制のときに。設置が終わって作品がいざできあがったなと思ったら、用務員のおじさんが二人来て、「蛍光灯切れてますよね、交換します」って二人組で蛍光灯取り替えようとしてて。明滅してるから切れてると思って交換しようとしてたんですよ。その話と全然関係ないですけど、そんなことがあり、結局今蛍光灯、これとも一つあるんですけど置き場所に困ってて。一応アトリエっていうか大学にあるんですけど困ってるものたちです。

おか 結構蛍光灯ってでかいもんね。



あまらぶアートラボ A-Lab archive vol.20
 A-Lab Exhibition vol.18 「A-Lab Artist Gate 2019」
 2019（令和元）年9月 初版第1刷発行

発行 編集 制作 尼崎市 文化振興担当